

ESD 推進ネットワーク全国フォーラム 2021
概要報告

1. 開催日時：2021年12月11日(土) 9:30～16:30
2. 開催方法：オンライン
3. 参加人数：延べ478人

※プログラム別の参加者数

- ・基調報告 102人
- ・パネルディスカッション 118人
- ・分科会 ①63人、②52人、③36人
- ・全体総括 107人

4. パネルディスカッション・分科会の概要

(1) パネルディスカッション(主な論点等は、資料4-①参照)

これまでに取り組んできたESDや求める人材像について各パネリストから報告の後ディスカッション。後半は、これからの社会に求められるESD推進ネットワークの姿について同じく各パネリストからの報告の後ディスカッションを行った。

(2) 分科会(各分科会の概要・論点等は、資料4-②参照)

8つの地方センターが3つに分かれて分科会の企画・運営を担当。今年度実施した「ESD for 2030 学び合いプロジェクト」の進捗・結果報告と成果・課題の共有の後、今後のESD推進ネットワークに必要なもの、求めることについて議論した。

(3) 全体総括

パネルディスカッション、分科会の概要報告の後、コメンテーターを交えてディスカッション。これまでに実施された様々な取り組みのプロセスから学ぶこと、息の長い取り組みを積み重ねながら主体や課題などのつながりを広げていくことの大切さが確認された。

5. 反省点等(2021年12月16日ESD活動支援センター打ち合わせ時の振り返り)

(1) イベント全体

- ・オンラインの割に参加者数が少なかった。多くのオンラインイベントが開催される中で埋没してしまったのではないかな。広報・周知の方法を含め、集客が少なかった要因について考えるべき。
- ・オンラインで丸一日のプログラムは長すぎる。コアな関係者以外からは敬遠されたのではないかな。2時間くらいまでの短いセッションを、日程を分散して開催するのも一案。
- ・対面開催と同じ路線で考えてはダメ。一方的なインプットにならないよう、双方向のやり取りができるようなプログラムにすべき。

- ・リアル開催をすとしても、東京で必ずしもやらなくてもいいのでは。開催地域を変えてそこに合わせたテーマと開催場所を検討してもいいのではないか。
- ・ESD推進ネットワークのロジックモデルの中で、全国フォーラムのねらいが明確になっていない。そこをはっきりさせてから、ターゲット・日程・規模を検討すべき。
- ・ネットワークのあり方をテーマにすると、必然的に参加者はコアな層になってしまう。全国フォーラムの目的としてそれでよかったのか疑問。
- ・パネルディスカッションを受けた分科会等の議論へと全体に横串を通すことが難しかった。

(2) 分科会

- ・学び合いプロジェクトのテーマに隔たりがあるため、複数の地方センターが共同で分科会を企画・開催するのは難しく、議論が消化不良になった。
- ・この時期に企画・登壇者の調整・当日の運営まで地方センターが行うのは負担が大きかった。来年度以降どのような形で実施するのか要検討。

以 上

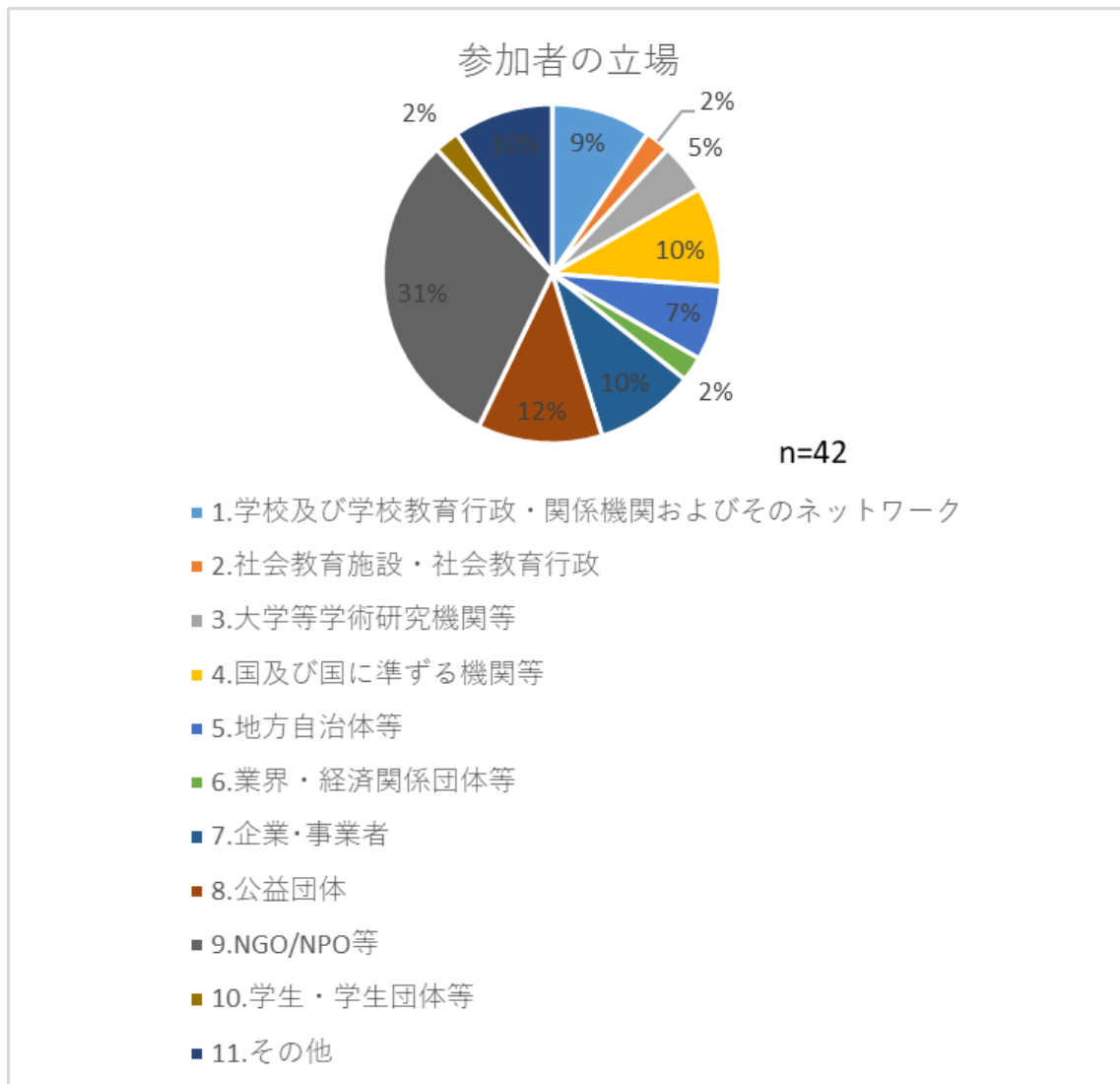
アンケート集計結果

参加者に対してウェブサイト上でアンケートを実施し、42人からの回答が得られた。
アンケート集計結果は以下のとおりである。

1. 参加者の属性

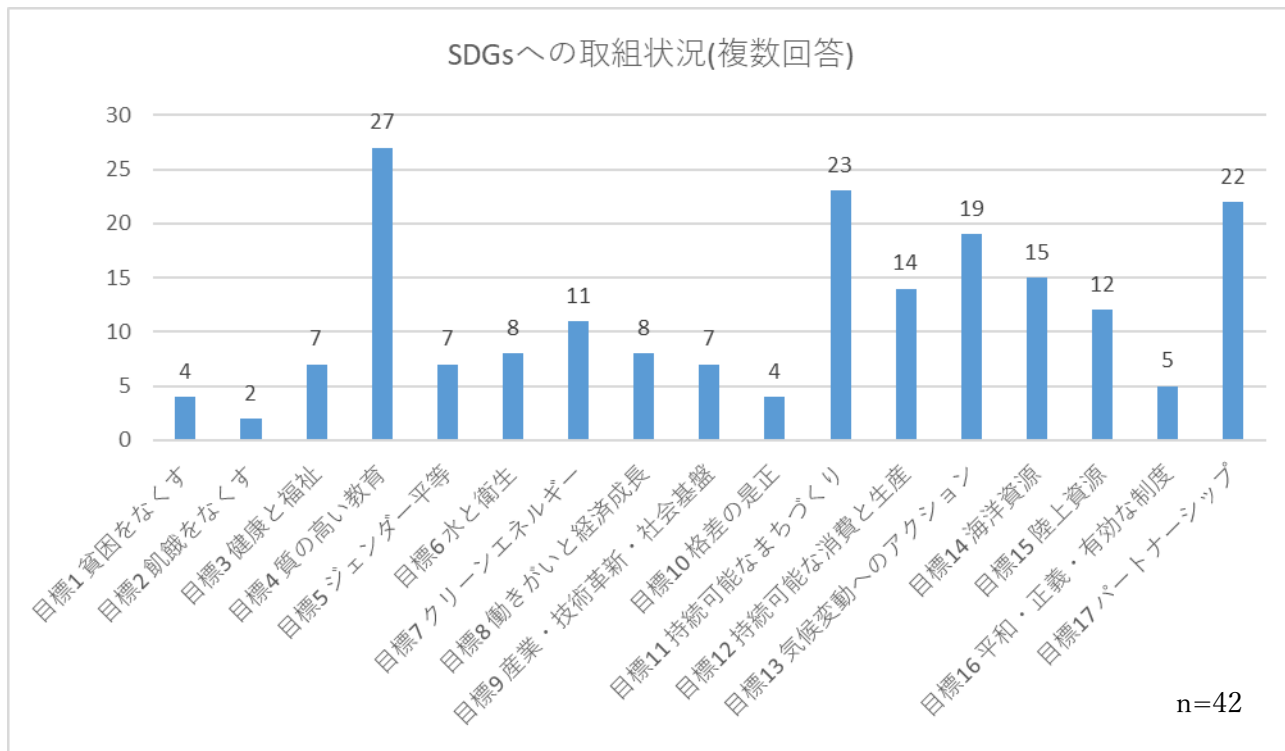
(1) 参加者の立場

参加者としては、NGO/NPO等（31%）が最も多く、公益団体（12%）が続いている。多様な主体からの参加が得られている。



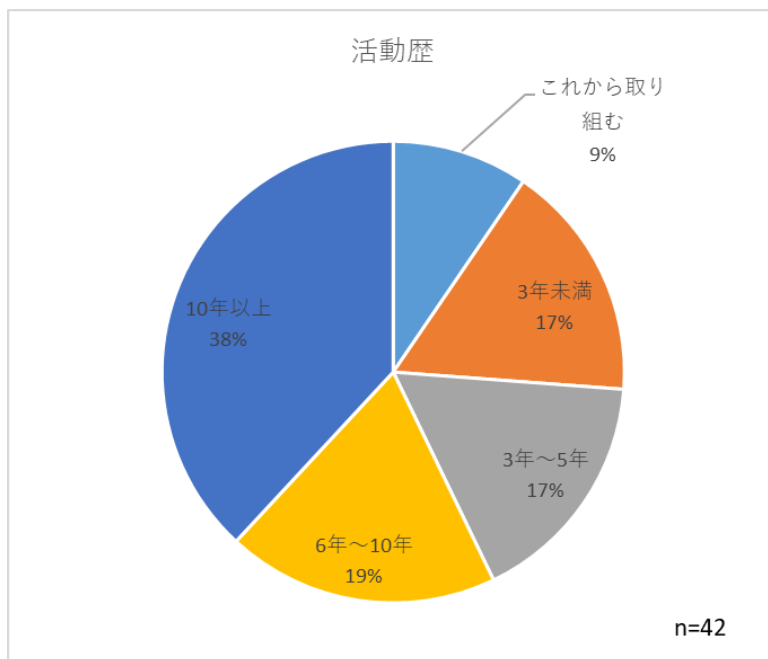
(2) SDGs への取組状況

SDGs4（教育）が最も多く、SDGs11（まちづくり）、SDGs17（パートナーシップ）が続いている。また、SDGs13（気候変動）、SDGs14、15（自然資源・生物多様性）、SDGs12（持続可能な消費・生産）などへの取り組みも多い。



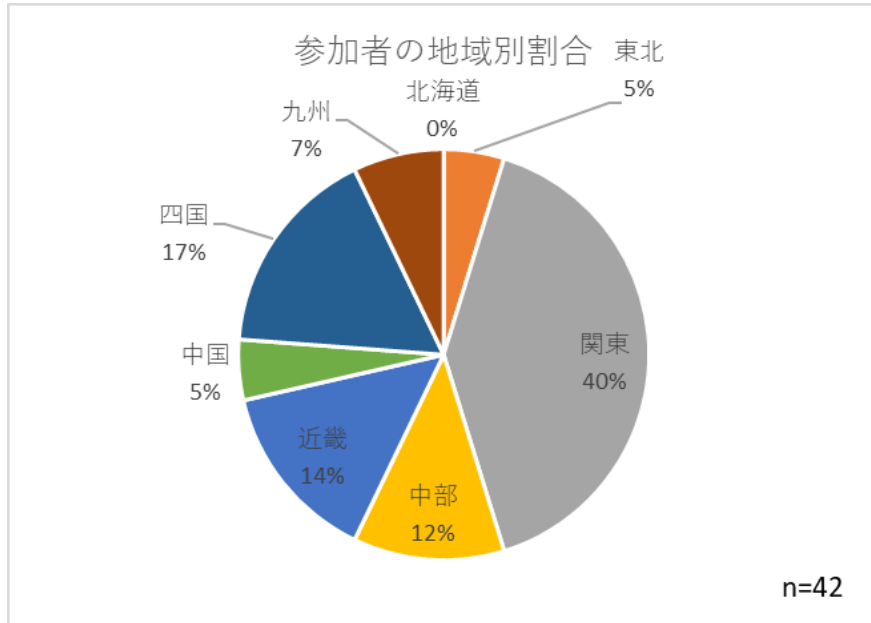
(3) ESD に係る活動歴（経験年数）

10年以上 ESD に関する活動をしている参加者が 4 割弱と多数を占めたが、未経験、あるいは経験の浅い方々も一定程度参加している。



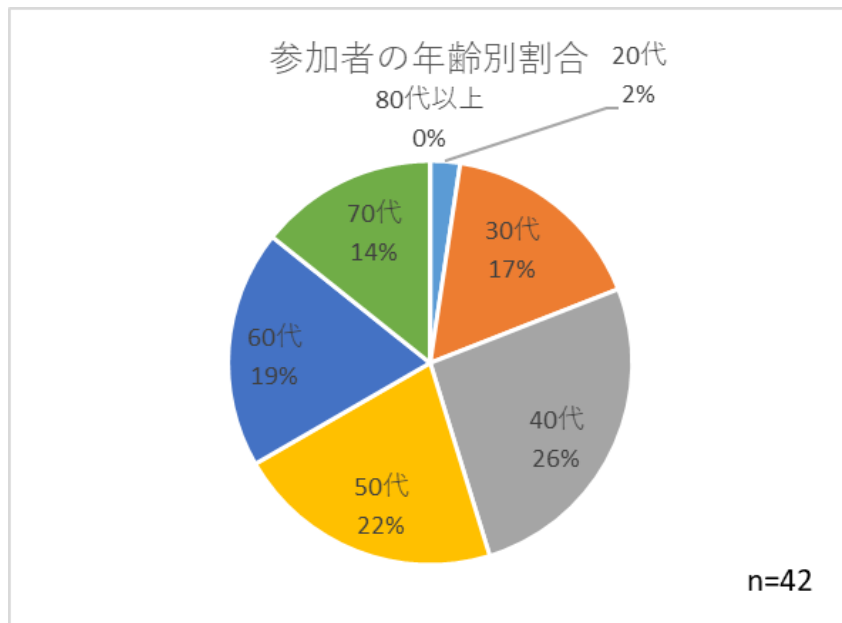
(4) 参加者の地域構成

関東からの参加が多い傾向は続いているが、初のオンライン開催となった昨年度に続き、遠方からも一定数の参加が得られた。



(5) 参加者の年齢構成

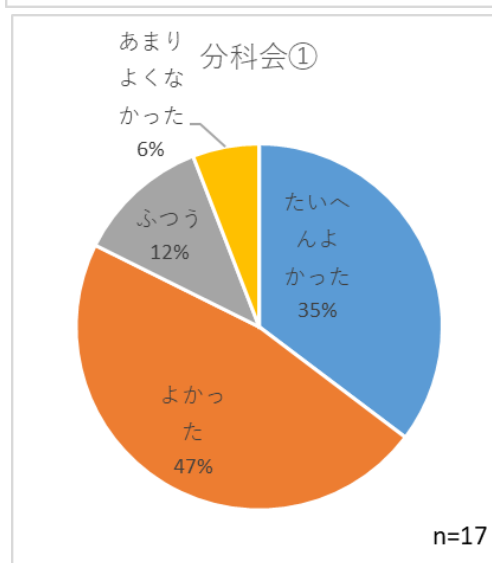
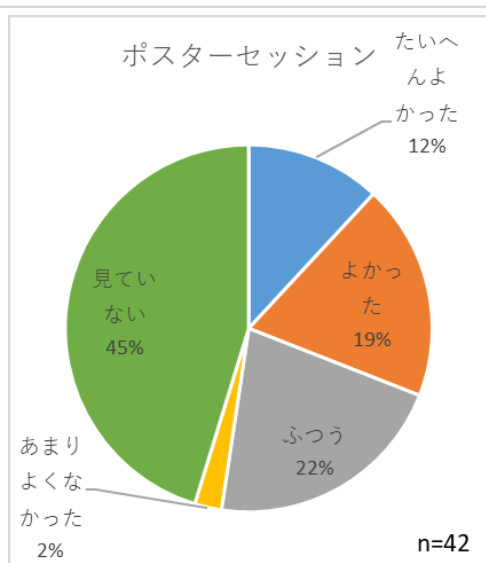
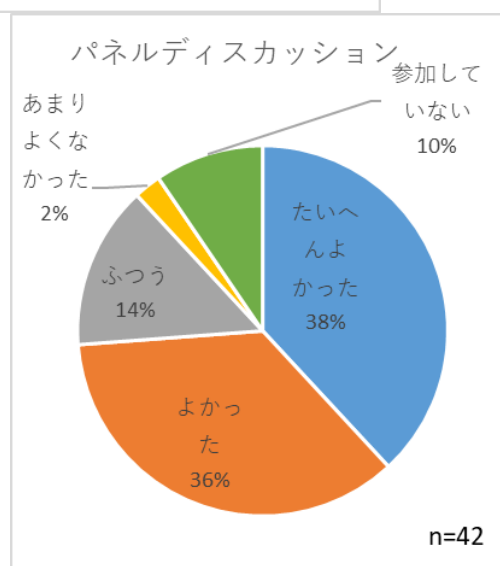
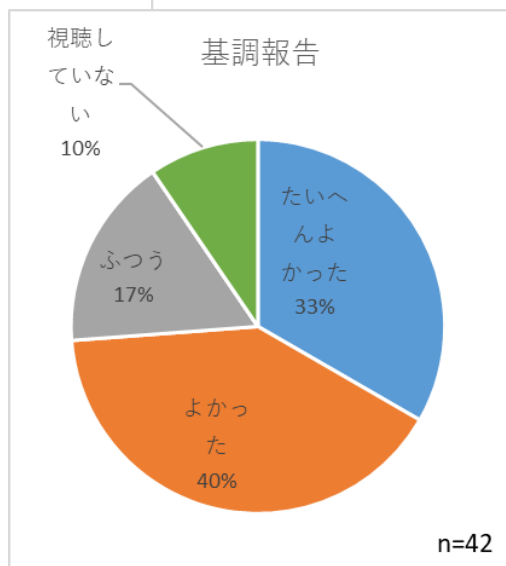
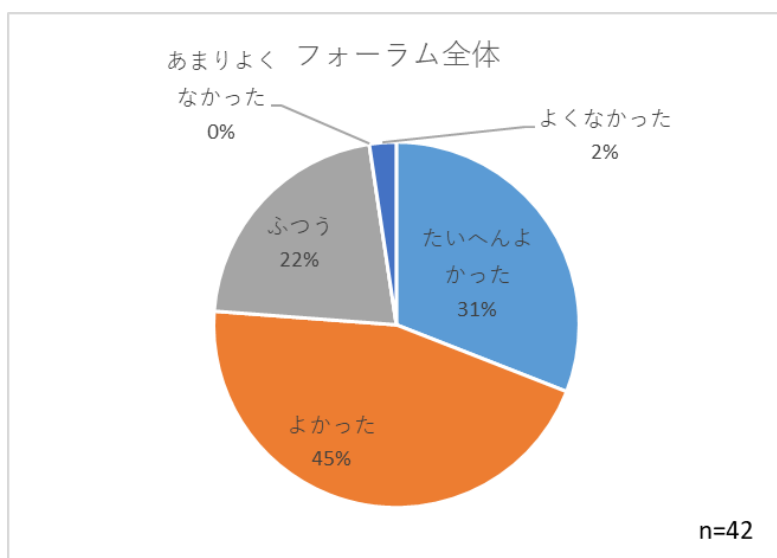
ユース（20代）の参加が少ないが、その他は幅広い年齢層がバランスよく参加している。

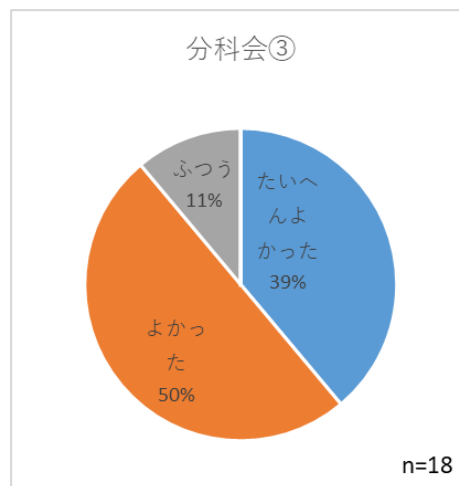
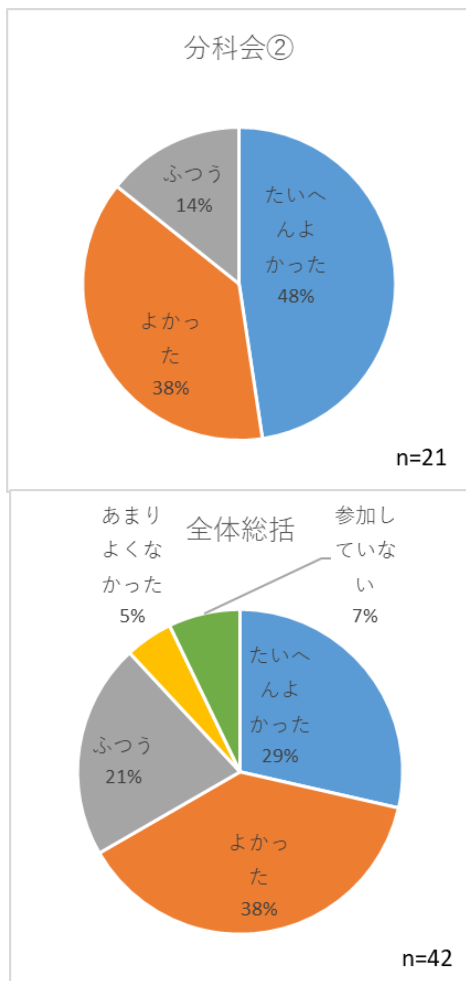


2. フォーラムに対する評価

(1) 全体評価及び分科会ごとの評価

フォーラムに対する参加者の評価は以下の通りである。

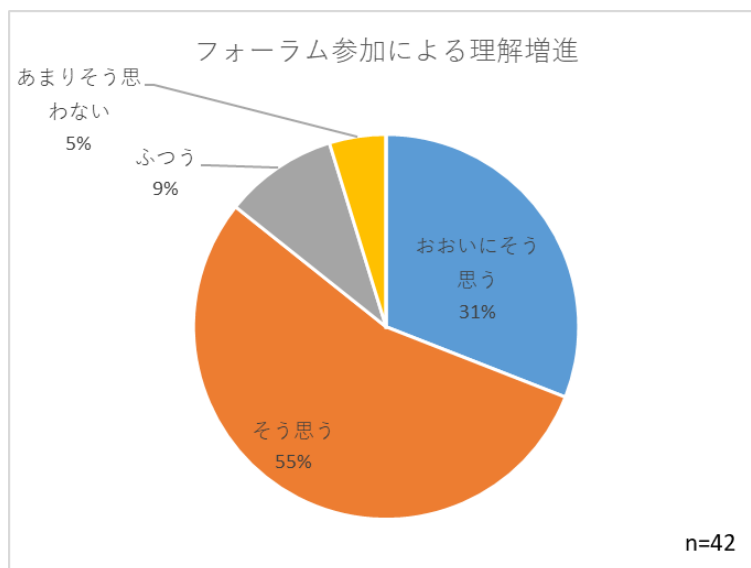




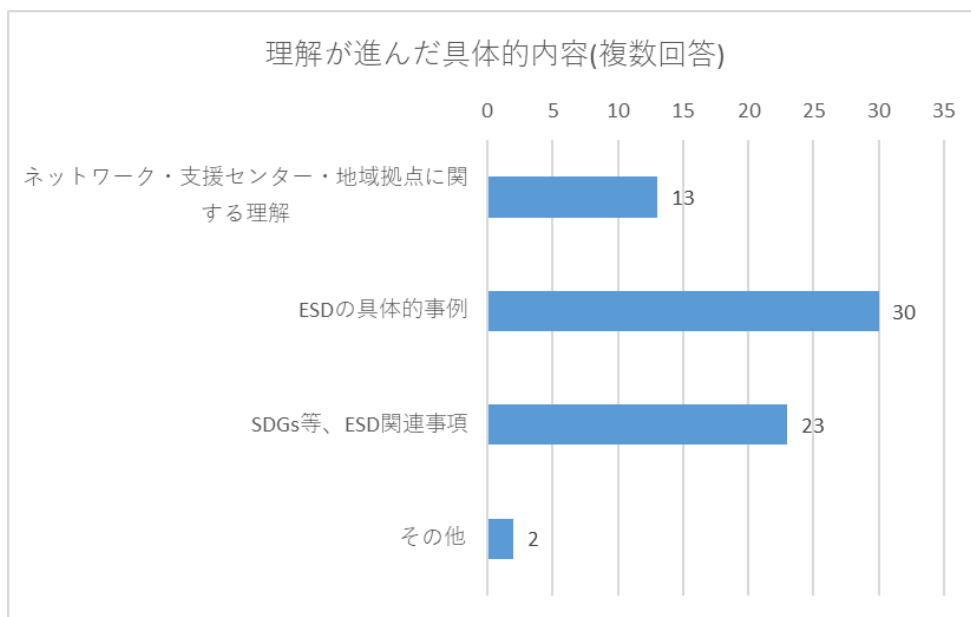
(2) フォーラムに参加して得られたもの

① フォーラムによる SDGs、ESD に対する理解の増進

フォーラム参加の成果として、多くの参加者が SDGs や ESD に関する理解が深まったと評価している（「おおいにそう思う」と「そう思う」を合わせて 86%。）。

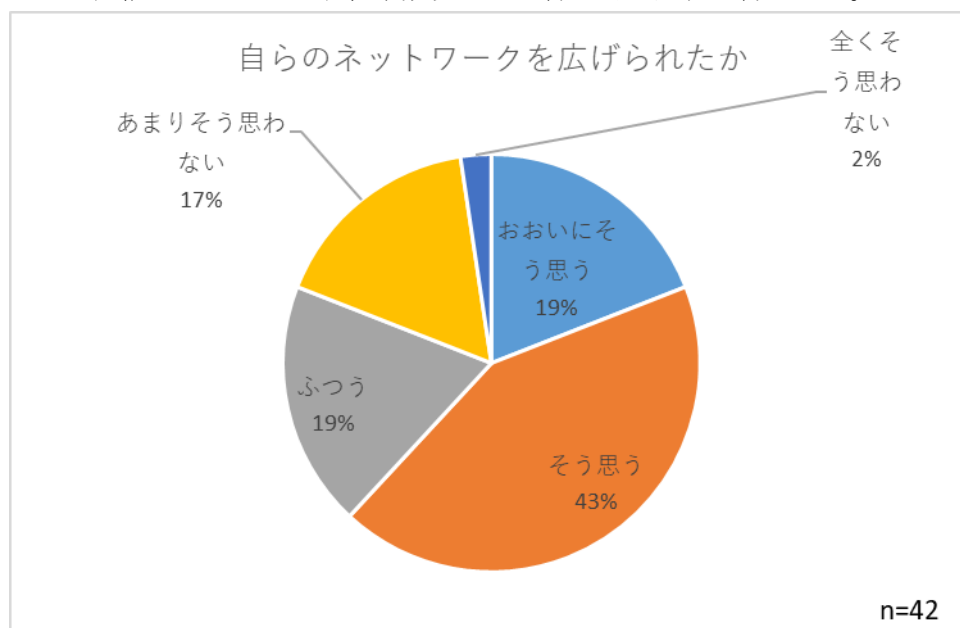


具体的には、ESD の事例を学べたこと、SDGs、ESD に関連する事項について学べたことが高く評価されている。また「その他」として「ESD と SDGs の位置づけがはっきりした」という回答が複数みられた。

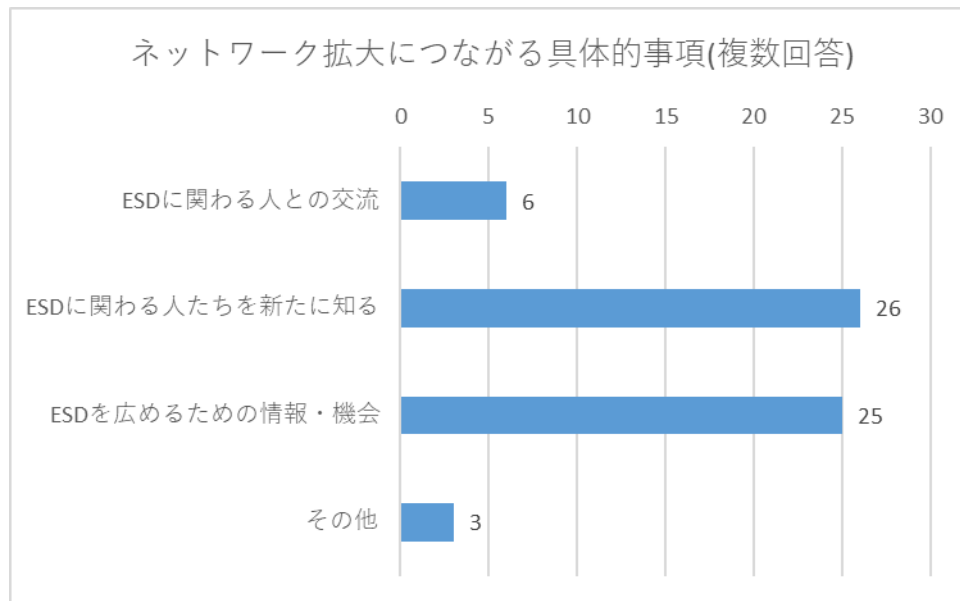


② ESD ネットワークの拡大

オンライン開催にもかかわらず、半数以上から肯定的な回答が得られた。

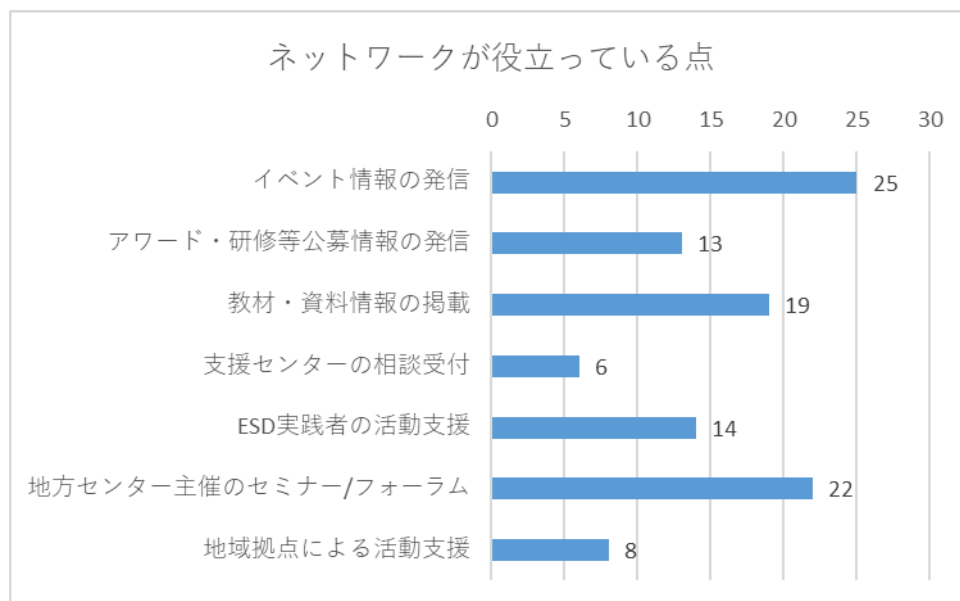


具体的には、ESD を広める情報・機会が得られたという回答が多かったが、オンライン開催の限界を指摘する意見も寄せられた。



3. ESD 推進ネットワークについて

ネットワークがどのような点で役立っているか聞いたところ、情報発信や地方センターが開催するイベントという回答が多かった。情報発信や知見の提供という部分ではネットワークの有用性が認知されつつある。



ネットワーク・支援センターが今後実施・強化すべき点を自由記述で聞いたところ、地域ESD拠点への支援、ユネスコスクールやESD学会との連携促進などの回答が多く見られた。